



✎ Tessa Welch
 🗉 Wiehan de Jager
 📄 Masato Tanaka
 💬 Japanska
 📊 nivå 3



ノシムリス本の鬚の毛

Sagor för barn på svenska

berattelser.se

ノシムリス本の鬚の毛

Skreven av: Tessa Welch
 Illustrerad av: Wiehan de Jager
 Översatt av: Masato Tanaka

Denna saga kommer från African Storybook (africanstorybook.org) och vidarebefordras av Sagor för barn på svenska (<https://berattelser.se/>), som erbjuder sagor på många språk som talas i Sverige.

Detta verk är licensierat under en Creative Commons Erkännande 3.0 Internasjonal Lisens. <https://creativecommons.org/licenses/by/3.0/deed.sv>





むかしむかし、三人の女の子が薪を集めに出
かけました。

すると、犬はノジバが自分をだましたこと
に気がつきました。犬は村に向かって走り続
けました。村ではノジバの兄弟が大きな
棒を持って待っていました。犬はふり返って
走りさっていき、それ以来現れることはあり
ませんでした。



その日はとても暑く、三人は川へ泳ぎに行き
ました。三人は水遊びをしたり水の中を泳い
だりしました。





突然、三人はおそい時間になっていることに気がつき、急いで村に帰ろうとしました。



犬は家に戻るとノジベレを探しました。「ノジベレ、どこにいるんだい!」と叫びました。すると、「ベッドの下にいるよ」と一本目のかみの毛が言いました。二本目が「扉の後ろにいるよ」と、三本目が「囲いの中にいるよ」と言いました。

犬が出て行ってすぐに、彼女は自分のかみの毛を三本抜きました。一本をベッドの下に、一本を扉の後ろに、もう一本を囲いの中に置くと、できるだけ早く村へ向かって走りまし



た。

村の近くまで来たところで、ノジバが首元に手を当てました。ノジバはネックレスを忘れてきてしまったのです。「お願い、一緒に戻って!」と彼女は二人に頼みました。しかし二人はもう時間がおそすぎると言いまし





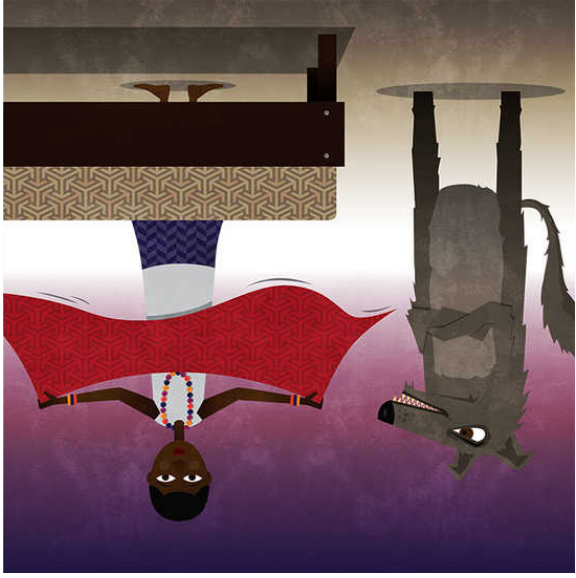
ノジベレは一人で川に戻ることにしました。
ノジベレはネックレスを見つけると村に急ぎ
ました。しかし、彼女は夜道で迷ってしまった
のです。



ノジベレは毎日犬のために料理やそうじ、せ
んたくをしました。ある日犬がこう言いまし
た。「今日は友達のところに行かなきゃ行け
ないんだ。帰ってくる前にそうじやせんたく
をして、何か作っておくんだよ。」



遠くに小屋の光が見えました。そこに急いで
向かい、扉をたたきました。



すると、「ベッドを用意しろ」と犬は言いま
した。ノジバシが「犬のベッドを用意したこ
となんかないわ」と答えると、「用意しない
とかみつくよ!」というので、彼女はベッド
を用意しました。



驚いたことに、犬が扉を開けて、「何がほしいんだい? 」と言いました。「迷ってしまったので寝る場所がほしいのです」と彼女が答えると、犬は「おいで、じゃないとかみつくよ」と言いました。



中に入ると、犬が「何か作ってくれ」といいましたが、ノジベレは「犬にごはんを作ったことなんかないわよ」と言いました。すると犬は「作らないとかみつくよ! 」というので、ノジベレはごはんを作りました。